

公判

○大藏院報告
島根縣出雲國神門郡今市村五百十三番
地平民岡市助長男人力車撞
明治十五年二月十五年

右乘次郎於竹内橋助ノ委託ヲ受テ機原吉助方ニ乘一
俟持届ノ途中撞ニ賣却シ代金費消セシ犯時十四歳十一月
ナルモ辨別アリテ犯シタル所爲ニ對シ松江輕罪裁判所カ
刑法第三百九十五條ニ依リ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ
當ル刑法第八十條第二項ニ照シ宥恕シテ二等減シ重禁
錮一月ニ處斷シタルト同裁判所檢事高野孟矩ニ於テハ擬
律ノ錯誤アルモノトシテ上告セリ上告ノ趣意ニ曰ク(被告
乘次郎ノ犯罪ハ刑法第三百九十五條末段拐帶ノ所爲アル
モノニシテ刑法第三百九十條詐欺取財ノ罪ニ當ルヘキ者
云々依テ本件ノ裁判ハ治罪法第四百十條第十項ノ理由ア
リトシテ上告ス)ト云フニ在リ明治十五年九月廿七日日本
件ノ公庭ヲ開キ專任判事報告書ヲ朗讀ス立會檢事上告ノ
主意ヲ主張シ且治罪法第四百十三條ニ從ヒ附帶ノ上告ヲ
爲セルヨリ治罪法第三百四條(刑ノ言渡ヲ爲スニハ一切
ノ証憑ヲ明示ス)トアルニ原判文ニハ此成則ニ由ラ
ズシテ何等証憑ヲ記載セス乃チ不法ノ裁判ナルニ付原裁
判ヲ破毀シ更ニ他ノ相當ナル裁判所ニ移スヘキ旨ヲ申立
タリ即裁判スル左ノ如ク

被告岡桑次郎カ竹内橋助ノ委託ヲ受ケ米一俵ヲ機原吉
助方ニ持届ノ途中賣却セシ刑罰法第三百九十五條ノ
委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ニ相當スルトノ
原裁判所ノ裁判ナレトモ右ノ純然ナル受寄ノ物件ヲ費消セ
シ法律ニ適當スル者ニ非ス現ニ拐帶ノ所爲アル者ニ付刑
法第三百九十五條末段ノ明文ニ據リ同第三百九十條ニ同
ビ詐欺取財ノ罪ヲ以テ論シヘキモノトス然ルニ原裁判所
ハ受寄ノ財物ヲ以テ論シ同第三百九十五條ノ初段ニ擬律
シタルハ錯誤アル不法ノ裁判ナリトシ且其旨渡書ニ竹
内橋助ヨリ機原吉助方ニ米一俵云々ト斷定スト獨ケタル
而已ニシテ其証憑ニ係ル顛末ヲ明示セザリシハ治罪法第
三百四條ノ規定ニ背キタル裁判ナリト即明治十五年二
月廿五日松江輕罪裁判所カ岡桑次郎ニ言渡シタル裁判ハ
破毀ノ原由アルモノニ付治罪法第四百二十八條ニ據リ之
ヲ破毀シ更ニ適法ナル裁判ヲ受ケシメシメカ爲メ米子輕罪
裁判所ニ移ス者ナリ

大審院ニ於テ檢事澄川拙三立會宣告ス
裁判長判事 中島 錫胤
專任判事 鳥居 義三
判事 山根 義二
判事 森田 忠雄
書記 森田 忠雄

時事新報

外交官ノ實
外交官ハ他國ニ對シテ自國ノ政府ヲ代表スルモノナリ一
國ノ政府ハ其國ノ民際ヲ代表スル者ナリ故ニ外交官ガ他
國ノ政府又ハ人民ニ對シテ施ス所ノモノハ一言一行一舉
一動悉皆國ノ利害ニ關係セザルハナシ例ヘバ愛ニ各國交
際上ノ事ニ付テ會議アランニ世人ハ之ヲ傍觀傍聽又傳聞
シテ其國ノ說ハ斯ノ如シ其國ノ注意ハ云々ナリト評スル
ハ無論、或ハ其傳播ニ於テ言論輿論ノ精神寬猛ヲ以テ論
斷ノ智慧ヲ測リ其德不修ヲ斷スルモノ少ナカラズ而シテ

其言論ノ權權、輿論ノ寬猛、獨リ其職責タル外交官ノ智
愚ト德不修トヲ評スルノ標準タルノミナラズ其外交官ノ
代表スル政府ノ價ヲ評シ又其政府ノ代表スル國民ノ價ヲ
評スルニ足ル可シ漫然タル江湖ノ人口ニ某國ハ愚ナリ某
國ハ智ナリ某國人ハ粗暴ナリ某國人ハ丁寧ナリト云フ其
評論ハ何レヨリ生スルヤト尋ルニ外交官ノ一言一行以テ
其原因タルモノ少ナシトセズ舊幕府ノ時ニ我國在留ノ英
國公使ハ「ルーセルホールト、アールコック」ト云ヒ米國公
使ハ「クランセント、ハルリス」ト云ヒ兩國公使ノ主義常
ニ同シカラズシテ我政府ニ對シテ其言行舉動相反對スル
モ多シ當時輿論ノ盛ナル時代コト或ル時浮浪ノ士ナリ
者ガ英公使館タル江戶高輪ノ東福寺ヲ襲撃シタルルニ英
公使ハ大ニ狼狽憤怒シテ直ニ國旗ヲ徹シテ我國ヲ去ラン
トマテ一切論ヲ同列タル米公使ニ「其義ニ同意センコ
ト促シテ」レハ米公使ハ泰然トシテ動カズ日本政府ハ眞實
ニ力ヲ盡シテ外國公使ヲ保護スルモノナリ浮浪ノ擻夷家
恐ル、コ足ラズ之ヲ恐レテ狼狽スルハ畢竟英公使ノ怯懦
ナリ我々等ハ我公使館タル麻布ノ善福寺中ニ安眠安食ス
「ノウヨルク」市中ノ眠食ニ異ナラズテ其催促ヲ謝絶ス
ルノミナラズ却テ他ヲ嘲哂スル程ノ有様ニシテ英公使モ
之ヲ強ムルコト能ハザリキ又英公使ノ日本國人ヲ遇スルハ
都テ威嚇ヲ主トシテ往々我書習儀ヲ犯スモノ多シ徳川家
ノ廟ニシテ聖地ト稱スル芝ノ山内ニ騎馬ニテ乘込マント
シタル「モアレ」米公使バ之ニ反シテ廟ノ拜禮ヲ出願シ
之ヲ許シテ案内スレバ公使ハ大門外ニ下馬スルノミナラ
ズ徒歩シテ次第ニ内ニ入り、門又門ヲ通行スル毎ニ案内
ノ吏人ニ向ヒ靴ヲ脱セザルモ差支ナキヤト聞キ每一門ニ
會釋シテ廟前ニ進シタル「ア」リ公使ノ心術主義相異ナ
ル「以テ」見ル可シ今日ニ至ルマデ日本全國ノ民心ニ於テ
英米兩國ノ人柄ヲ評スルコト其寬猛剛柔如何ト問ヘバ米ヲ
柔ナリトシテ英ヲ剛ナリト云ハザル者少シ其實論スレ
バ英人必ズモ剛猛ナラズ米人獨リ寬柔ナルニモ非ズ且
又我國人ノ斯ク評論シテ下ラスコトハ横々ノ原因モアル「ナ
ラント」雖モ兩國ノ外交官タル公使ガ一時ノ言行舉動ヲ以
テ日本國人ノ情ニ影響シタルモノ其原因中ノ一トシテ計ヘ
ザルヲ得ズ又幕府ノ末年ニ佛國ノ公使「レナン、ロセス」
氏ハ頻リニ我政府ニ近接シテ商賣上ノ事ヲ助言シタル末
ニ「積須賀」製鉄所モ佛人コト引受ケン條約ヲ結ビ鉄ヲ買
ヒ器械ヲ買ヒ又ハ陸軍用ノ銃砲雜紗等ノ買入方ヲモ一切
佛公使ノ筋ノ人ニ托シテ「レ」バ當時日本ニテ少シク外國ノ
事情ヲ知ル者ハ佛公使ヲ目シテ射利主義ノ人物ナリト評
シ「遂ニ」佛政府ヲモ悅ハザルノ情ヲ生シタル「ア」リ
右ハ當時日本ニ在留シタル外國公使ノ言行舉動ヲ以テ日
本國民ノ心ニ多少ノ感動ヲ生シ其各國ノ政府ニ對シ又其

國人ニ接シテ幾分か親疎遠近ノ情ヲ傳フシタルノ一例ナ
リ外交官ハ政府ヲ代表シ政府ハ國民ヲ代表スルノ事實以
テ知ル可シ固ヨリ外交官ハ就テハ其國政府ノ一定ノ大
主義ヲ存シ外交官ハ唯其既定ノ主義ヲ實地ニ施行スルマ
デノ事ナリトハ雖モ交際ノ表面ニ立ッ者ハ官吏ニシテ唯
ニ政略主義ノミナラズ交際上ノ一言一行一舉一動モ之ヲ
容易ニス可ラズ外交官ノ口ニ義ヲ旨ヒ以テ利ヲ百ハシ其
言ハ政府ノ言ナリ、外交官ノ行ハ所智ナリ又愚ナラン歟
其智愚ハ政府ノ智愚ナリ、其正雅モ政府ノ正雅ナリ、其鄙
劣モ政府ノ鄙劣ナリ、尙細ニ互レバ外交官其人ノ私德品
行、平生ノ行作好何、私ノ交際遊談笑ノ事情ニ至ルマデ
モ間接ニハ政府ノ名又國ノ名ニ影響スル所少ナシト
セズ古今内外ノ事跡ニ照ラシテ之ヲ見ル可シ我日本國ニ
於テモ外國ノ交際ハ日ニ繁多ニ赴キ月ニ重大ヲ増シ西洋
ニ東洋ニ其關係スル所實ニ容易ナラザルノ秋ナレバ諸外國
ニ派遣セラレタル官吏ガ昔年我國ニ在留シタル諸外國公
使等ノ舉動ヲ想起シテ之ヲ檢點ト爲ス可キハ無論、殊ニ
又今日自國ニ居テ外客ニ接スル外務官ノ如キハ其責任ノ
重キ「固ヨリ」外ニ在ル者ノ比ニ非レバ「特ニ」注意シテ一
百一行モ等閑ニ附スルナキ「我輩」ノ希望ニ堪ヘザル所ナ
リ抑モ言行ヲ慎ムハ固ヨリ君子ノ應キ然ル可キ所ニシ
テ必ズシテ獨リ外交官ニ求ムルニモ及ハザルニ似タレハ
内治外交コレヲ比較シテ内國ノ事ナレバ「命令」ハ失策アル
モ尙コレヲ内ニシテ施スノ法モアル可シト雖モ外人ニ對
シテ「一言」ハ一舉一動ニ及テ可ラズ、一行ハ以テ百年ノ大計ヲ
誤ルコト足ル可シ特ニ謹慎ヲ加フルト云フモ我輩ハ其及ハ
ザルヲ恐ル、ナリ故ニ我輩ハ「既」存現在我外務官ノ進退舉
動ヲ觀察推考シテ其關係スル所ノ公私大小ニ論ナク公務ニ
テモ私事ニテモ一言一行一舉一動決シテ之ヲ輕キニ看過
スルコトナク尙將來モ刮目シテ之ヲ窺ヒ毛髮ノ微モ洩ラス
ナキヲ勉ム者ナリ固ヨリ我輩トシテ敢テ君子ヲ以テ自カ
ラ居ル者ナレバ他ノ私事機密ヲ摘發シテ之ヲ世ニ公論シ
以テ社會ニ變亂ヲ興シム者ニ非ズ唯外務官ノ言行舉動ハ
其關係スル所至極重大ナルガ故ニ獨リ窺ニ之ヲ明知シ以
テ諸外國人ガ我日本國ヲ評價スルノ輕重ヲトセント欲ス
ルノ微意ノミ讀者コレヲ誤認スル勿レ

○行幸 聖上ハ昨六日午前八時三十分御出門ニ内膳
新宿御園御園へ行幸在せられり
○出品目錄 此種農商務省博覽會にて繪畫共進會出品目
録を編製せられ 聖上并ニ皇后宮へ獻納致し度旨其筋へ
伺出されし處不苦旨指令ありしに付三日内宮内省
へ獻納し其他皇族大臣參議方々へも一部宛配布さるゝ
といふ